日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSj PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN NEWS

2013 年 7 月

NO. 243

TOPICS

「2013 年度 ― 新たなる成長への基礎づくりの年」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 森 健
MESSAGE P3

「定例研究会 聴講申し込み方法の変更についてのお知らせ」
ATTENTION P4

「第 13 回「PRプランナー資格認定検定試験」
7 月 19 日まで 1 次試験受験予約受付中！」
ATTENTION P5

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 2 番 31 号 六本木ヒルズノースタワー5F
電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147
URL http://www.prsj.or.jp/

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:森 健

7月号　目次

7月・8月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「2013年度 ― 新たなる成長への基礎づくりの年」	3
ATTENTION(お知らせ)	「定例研究会聴講申し込み方法変更についてのお知らせ」	4
〃	「第13回PRプランナー資格認定検定試験　7月19日まで1次試験受験予約受付中！」	5
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2013　夏の「3次試験対応講座」を6月13日より開講」	7
〃	「異文化交流勉強会　駐日欧州連合(EU)代表部訪問」**【会員限定】**	8
VOICE of PR Planner	「PRマインドでイベントの持続的成長を後押しする」	9
REPORT(講演レポート)	「第148回定例研究会開催報告」**【会員限定】**	10
PR TREND(PRトレンド(関西)	「関西の風：世界のあちこちで「日本酒で乾杯！」」	11
PLAZA(会員便り)	「㈱タカオ・アソシエイツが「広報パーソンのための　危機管理の手引き」発行」	12
〃	「「ガタガタ村と大ナマズ」の絵本のご紹介」	13
協会掲載記事	「PRSJ　in　Media　6 月」	15

7月～8月スケジュール

広報 PR アカデミー2013 **「PRプランナー3 次試験対応講座」**	日　時	：	7 月 3 日(水)、10 日(水)、17 日(水) いずれも 19:00～21:30
	会　場	：	六本木アカデミーヒルズ 49
第 149 回定例研究会	日　時	：	7 月 5 日(金)　12:00～14:00
	会　場	：	日本外国特派員協会(FCCJ)
	講　師	：	ダイヤモンド社「週刊ダイヤモンド」編集長　小栗正嗣氏
	テーマ	：	「徹底的な取材で真相を描く『週刊ダイヤモンド』の編集方針 ～創刊 100 年を迎えるビジネス週刊誌のこれからの展開～」
広報 PR アカデミー2013 **「PRプランナー1 次試験対応講座」**	日　時	：	7 月 9 日(火)、16 日(火)、30 日(火) 8 月 6 日(火)　　いずれも 19:00～21:30
	会　場	：	六本木アカデミーヒルズ 49
なでしこカウンシル	日　時	：	7 月 10 日(水)　12:00～14:00
	会　場	：	クルーズクルーズ　THE　GINZA
	講　師	：	㈱TMオフィス　代表取締役社長　殿村美樹氏
	テーマ	：	「スラして、一発逆転」
広報活動研究会(企業部会)	日　時	：	7 月 16 日(水)　14:30～
	会　場	：	キリン横浜ビアビレッジ(キリンビール横浜工場)訪問
会員納涼懇親会	日　時	：	7 月 25 日(木)　18:30～20:30
	会　場	：	南米料理「ミラフローレス　恵比寿店」
PRプランナー資格認定 **検定 3 次試験**	日　時	：	7 月 27 日(土)　12:25～16:00
	会　場		富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター(東京) 富士通ラーニングメディア関西ラーニングセンター(大阪)
PRプランナー資格認定 **検定 1 次試験**	日　時	：	8 月 25 日(日)　10:20～12:00
	会　場		KFCホール(東京) 大阪YMCA国際文化センター(大阪) 北海道建設会館(札幌) 愛知建設業会館(名古屋)

7月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（７月度）	日　時	：	７月 ９日（火）　12：00～14：00
	場　所	：	六本木ヒルズクラブ
幹部会（経営会議）（７月度）	日　時	：	７月 ９日（火）　10：30～11：45
	場　所	：	協会会議室
教育委員会（７月度）	日　時	：	７月 11 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
資格委員会（７月度）	日　時	：	８月　１日（木）　17：00～18：30
	場　所	：	協会会議室
交流委員会（７月度）	日　時	：	７月 18 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
広報委員会			
PR小委員会(7月度)	日　時	：	７月 22 日（月）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
出版小委員会(7月度)	日　時	：	７月 17 日（水）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
顕彰委員会(7月度)	日　時	：	７月 16 日（火）　11：00～13：00
	場　所	：	協会会議室
企業部会幹事会（７月度）	日　時	：	７月　２日（火）　17：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
ＰＲ業部会幹事会（７月度）	日　時	：	７月 18 日（木）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室

2013 年度 ー 新たなる成長への基礎づくりの年

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事長 森 健

当協会は、今年、公益法人として２年目を迎えました。また。現執行部での２年目、任期最後の年となります。公益法人初年度の昨年は、これまでにも増して協会活動の「公益性」を強く意識し、社会とともに進化し、さらに広く、社会一般に付加価値を提供できる協会へと、体制の充実を図ってまいりましたが、 本年度もこの方針を堅持し、さらなる改善に努めてまいります。

健全な協会運営のためには､何よりも組織の充実､安定的な財務基盤の構築が求められます。組織的には、多くの会員の方々に新たにご加入をいただき、新しい風を吹き込んでいただいております。また、財務的には、安心はできませんが、年度収支の黒字基調を保つことができております。２－３年前には、財政的に極めて厳しい時期もありましたが、組織および事業の見直し、経費の見直しなどを徹底し、公益法人１年目の昨年度は、黒字決算で終わる事が出来ました。会員の皆様方のご理解、ご協力に厚く御礼を申し上げます。

本年度は、安定飛行に移りつつある当協会をさらに将来に向けて、飛躍をさせる基礎作りの年ととらえて、新しいチャレンジを重ねていく所存です。現在、協会の公益事業の核となっているのが、「広報ＰＲアカデミー」と「ＰＲプランナー資格認定制度」です。「広報ＰＲアカデミー」は広報にかかわる人材の育成を目的としたものですが、質の高いコンテンツの提供が何よりも大切です。常に、その教育プログラム、ラインアップを見直し、また、受講希望者の利便性を高めるために、ネット受講を取り入れるなど、本年度も、より充実した、開かれた教育活動を目指してまいります。

「ＰＲプランナー資格認定制度」は､さらに多くの方々にチャレンジをしていただくために、試験会場を従来の東京、大阪から、札幌、福岡にまで拡大いたしてまいりましたが、本年度は一次試験の名古屋での実施も計画しております。年間受講者数も堅調に推移しており、平成 24 年度末累計で、ＰＲプランナー資格保有者は、全国で 1,430 名となりました。 こうした「ＰＲプランナーの皆様の個人会員入会」を促進することも大切ですので、そのためのメリットの充実を検討しています。ＰＲプランナーの皆様のネットワークづくりに寄与できれば、と考えています。

また、協会の顕彰事業である、「日本ＰＲ大賞」「ＰＲアワードグランプリ」につきましても、広報・ＰＲ作業のプレゼンスの向上、当協会の知名度アップのために、今まで以上の広報効果が期待できるように、準備をいたしてまいります。

近年における社会の複雑化、価値観の多様化などにより、「伝えること」「伝わること」、あるいは、「合意を形成すること」など、コミュニケーションの重要性がますます高くなっています。社会における広報・ＰＲという機能と役割についても、その必要性、重要性が格段に上がっています。「日本における広報・ＰＲのさらなる発展と高揚に資すること」を目的とした日本パブリックリレーションズ協会は、そうした社会的要請に応えるべく、本年度も協会活動の充実を目指してまいりますので、今後とも、皆様方のご理解と、なお一層のご支援、ご協力のほどを、何とぞよろしくお願い申し上げます。

●「定例研究会」聴講申し込み方法の変更についてのお知らせ●

2013 年 7 月 5 日開催の「第 149 回定例研究会」より聴講の申込み方法はWebのみとさせていただきました。引き続き、みなさまのご協力をお願いいたします。

かねてより事務局では事務の効率化と会員サービスの向上のため、業務電子化の取り組みを進めております。

その一環として、現在、Webと返信メールにて受付けておりました定例研究会の聴講申込みについて、7月 5 日開催の「第 149 回定例研究会」より**Webによる申込みに一本化**させていただきました。Web申込みにご協力いただきましたみなさまに厚くお礼申し上げます。

引き続き協会のみなさまに、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務局

第 13 回「PRプランナー資格認定検定試験」
7 月 19 日まで 1 次試験受験予約受付中！

資　格　委　員　会

第 13 回ＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：8 月 25 日(日)）では、東京・大阪以外での各地域での開催希望の声に応え、第 11 回に引き続き北海道と、今回から新たに名古屋会場にて、「ＰＲプランナー資格認定制度／検定第 1 次試験」を実施します。

日本ＰＲ協会が認定する「ＰＲプランナー資格認定制度」は、広報・ＰＲの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は第 1 次から第 3 次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・ＰＲに関する高い専門能力の保有を認定する「ＰＲプランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年より発足しすでに 11 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 1,428 名のＰＲプランナーが一般企業、ＰＲ会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、7 月 19 日（金）までとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

＜ＰＲプランナー資格認定制度／検定第 1 次試験　実施概要＞

試験日	2013 年 8 月 25 日（日） 試験は東京・大阪・札幌・名古屋会場ともに 8 月 25 日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
募集定員	東京：400 名・大阪会場：80 名・札幌会場：80 名・名古屋会場：80 名
受験応募・申込方法	資格制度Ｗｅｂサイトで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2013 年 6 月 3 日（月）～ 2013 年 7 月 19 日（金）
申込書送付期間	2013 年 6 月 4 日（火）～ 2013 年 7 月 26 日（金）＜必着＞
受験票送付	2013 年 8 月 9 日（金）発送
合否通知送付	2013 年 9 月 6 日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2 次試験ならびにＰＲプランナー補認定申請のご案内を、メールでも 9 月 9 日（月）にお送りします。

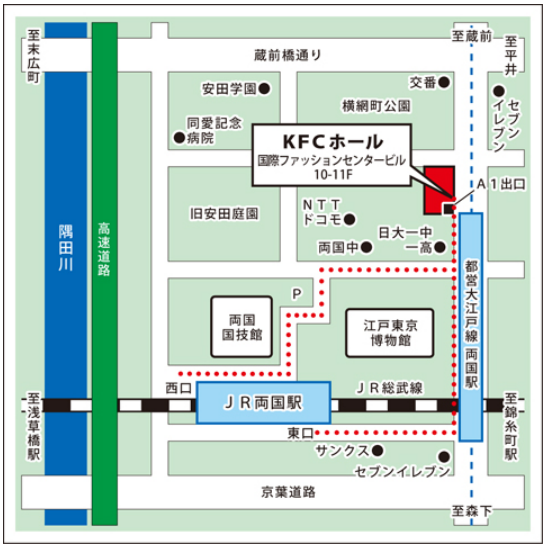
＜試験時間＞

０９　時　３０　分	各試験会場に入館できます
１０　時　２０　分	指定の教室・座席にご着席ください
１０　時　２５　分	注意事項伝達・試験問題配布
１０　時　４０　分	試験開始
１２　時　００　分	試験終了

受 験 会 場

第 13 回ＰＲプランナー資格認定検定試験（1 次試験）の験会場は、東京・大阪・札幌・名古屋の下記会場となります。試験開始時刻の「20 分前」までにお越しになり、指定の座席にご着席くださ　　い。

東京会場



ＫＦＣホール
東京都墨田区横網 1－6－1
・ＪＲ総武線「両国駅」下車 徒歩 8 分
・都営大江戸線「両国駅」直結

大阪会場

大阪ＹＭＣＡ国際文化センター
大阪府大阪市西区土佐堀 1－5－6
・地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」下車 徒歩 6 分
・京阪中之島線「中之島駅」下車 徒歩 8 分
・京阪中之島線「渡辺橋駅」下車 徒歩 9 分

札幌会場

北海道建設会館
北海道札幌市中央区北 4 条西 3－1
・ＪＲ「札幌駅」南口から徒歩 3 分
・地下鉄「さっぽろ駅」12 番出口（西武）
　13 番出口（東急）　から徒歩 3 分
・ＪＲバス／中央バス 駅前ターミナル前 徒歩 1 分

名古屋会場

愛知建設業会館
愛知県名古屋市中区栄 3－28－21
・地下鉄名城線「矢場駅」下車 徒歩 3 分

広報PRアカデミー2013

夏の「3 次試験対応講座」を 6 月 13 日より開講

--- PRプランナーをめざし 40 数名が受講 ---

教　育　委　員　会

6 月 13 日、六本木アカデミーヒルズ 49 にて、7 月下旬実施の第12回ＰＲプランナー認定3次試験の合格をめざす受講者の参加のもとに「ＰＲプランナー3 次試験対応講座」を開講しました。

今回は昨年の実績を上回る 40 数名が本講座を受講、ニュースリリースの作成と広報・ＰＲ企画の立案作成に関する知識とスキルの習得に向け、講義と演習に熱心な取り組みを進めています。7 月 3 日には第 4 回目の講座となる「広報・ＰＲ計画の立案作成（マーケティング課題)」を終了、残すのは「広報・ＰＲ計画の立案作成（コーポレート課題)」の 2 回のみとなりました。本講座の終了後、7 月 25 日に実施される第 12 回 3 次試験では受講者多数の合格が期待されます。

「PRプランナー1 次試験対応講座」も 7 月開講

3 次試験対応講座に続き、7 月 9 日（火）より 1 次試験対応講座を開講します。本講座では過去の試験で出題された問題を使用した模擬試験形式を採用し、1 次試験の形式やレベルのみならず、広報・PRに関する基本的な知識を習得することができます。

本講座では、インターネットを利用し会場外からの受講を可能とした「Web 受講サービス」を提供、遠隔地や自宅外からライブで受講できることに加え、講義の動画データのアーカイブの視聴によりご自身の都合の良い時に学習することが可能です。Web受講は、講座開講後も協会Webサイトで申込みを受け付けます。お申込みは、「セミナー/イベントを探す」の「PRプランナー1次試験対応講座」のページをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/prp/1st_201307

日　程	講　座　内　容	講　師	受講料	申込締切
7 月 9 日（火） 19:00～21:30	・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営とパブリックリレーションズ ・広報・PRマネジメント	（公社）日本パブリックリレーションズ協会　事務局次長 真部一善	**会場受講＋Web 受講** 一般 31,500 円 学生 18,900 円 PR協会会員 21,000 円 **Web 受講のみ** 一般 21,000 円 学生 18,900 円 PR協会会員 21,000 円	**会場受講＋Web 受講** 7 月 2 日（火）まで **Web 受講** 講座開始後でも受付けますが、終了後の講座はアーカイブの視聴のみとなります
7 月 16 日（火） 19:00～21:30	・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR	㈱ILCC PR・PA部部長 永井昌代 氏		
7 月 30 日（火） 19:00～21:30	・行政・団体の広報活動 ・国際広報 ・企業と危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム			
8 月 6 日（火） 19:00～21:30	・インベスターリレーションズ ・エンプロイーリレーションズ ・ネットPR	（公社）日本パブリックリレーションズ協会　事務局次長 真部一善		

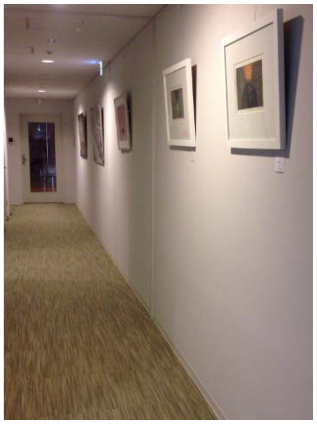
日本ＰＲ協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

会 員 限 定

異文化勉強会
駐日欧州連合（ＥＵ）代表部訪問

交 流 委 員 会

2013 年 5 月 21 日（金） 駐日欧州連合（ＥＵ）代表部を訪問しました。当日は、参事官・広報部部長 ルディ・フィロン氏から「ＥＵが誕生した目的と背景」、同広報部　オンライン広報誌「ＥＵ ＭＡＧ」担当　前田真理子氏から「ＥＵ広報のミッションと取組み」についてお話を伺い、質疑応答の後、館内をご案内いただきました。当日は 36 名が参加しました。



PRマインドでイベントの持続的成長を後押しする

㈱セレスポ　経営戦略室 兼
サステナブルイベント研究所 所長 越川 延明

ビルコム㈱の中堀さんからバトンを受け継ぎました㈱セレスポの越川延明です。ＰＲ会社でもなく、自社の広報担当でもなかった私がＰＲプランナーの資格取得を目指した理由を、自己紹介を交えながら説明します。

弊社はセレモニーとスポーツを創業事業とするイベント制作会社です。社名のセレスポは「セレモニー＆スポーツ」の略から生まれた造語です。セレモニーは記念式典や行事、スポーツは競技大会やレクリエーションとしてのスポーツイベントの制作を行っており、現在は総合制作としてイベント全般への対応をしております。

私は新卒以来ずっと同じ会社に所属しており、会場管理、営業、管理部門と職種を変えてきました。その中で、ＰＲをきちんと学ぼうと思ったのは営業の時です。以前から販促イベントを請け負うことはありましたが、ＰＲ会社や企業の広報部の方と仕事をする機会が増えてきたことから、ＰＲイベントがどういう位置づけの中で行われているのかを理解しようとしたことが資格取得を目指した発端です。ちょうど広報やＰＲという言葉に注目が集まり始めたことも後押ししたような気もします。当時は広告宣伝と広報の違いもよく分かっていませんでしたが、受験を通じてＰＲというものを広く考えることができ、自身の業務だけでなく、クライアントに対する理解も進みました。

現在は受験を通じて学んだ知識や交流会を通じて知り合った方からの刺激を糧に日々の業務に生かしています。これについても、私が本業として携わっていないため、フラットな立場で多くの方の意見を受け入れやすく、実践しやすいのかもしれません。そう考えると、業界や職種にこだわらず、より多くの方とＰＲパーソンが話を持てる機会があると面白いことが生まれる気がします。また、ＰＲ業界の周辺にいる者からすると、目先の目標を達成するためにＰＲが使われていることが多い印象があります。もっと社会的な課題、企業の命題に取り組むためにＰＲを生かす企業・団体が増える社会になってほしいと感じています。パブリックリレーションズとはそれくらい大きいことだと思います。そのためにも協会の活動として、業界の活性化だけではなく、社会全般にパブリックリレーションズを広めてほしいと思います。

私の業務として、7 月に社内組織として「サステナブルイベント研究所」を設立しました。これは経済活動の大きなテーマであるサステナビリティ（持続可能性）をイベントマネジメントに生かすことを目的としています。既に国際イベントでは重要な評価項目となっていますので、国内イベントに対しても社会的な価値観を強め、競争力を高めていこうとの考えから立ち上げました。国際標準規格『ＩＳＯ 20121：イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム』の策定メンバーに私が入っていたこともあり、この視点の必要性を意識したこともあります。興味深いことは、他国のメンバーに「サステナビリティに向き合うキーワードは？」と質問をすると殆どのメンバーが「パブリックリレーションズ」と答えていることです。ひょんなことから私が所属しているイベント業界、刺激を受けているＰＲとサステナビリティが繋がりました。今後はＰＲマインドを持ち、イベントを通じて社会貢献をしていこうと考えています。

運動会も請け負っている弊社の感覚では 4 番目にバトンを受け取る人はアンカーなのですが、このリレーはまだまだ続きます。次回は私のアンテナのちょっと先に好奇心をくすぐるものを用意してくれる、東京国立近代美術館の稗田竜子さんにバトンを渡します。

会 員 限 定

第148回定例研究会

日本経済新聞の企業取材の方向性、そして現場の記者に託していること

―産業部長に、日経は何を取材し何を伝えようとしているのかを聞く―

講　師：日本経済新聞社東京本社 編集局
産業部長　藤賀三雄 氏

第 148 回定例研究会（5 月度）は 5 月 28 日（火）、日本外国特派員協会（ＦＣＣＪ）で開催しました。講師は、日本経済新聞社　編集局産業部長 藤賀三雄氏。テーマは「日本経済新聞の企業取材の方向性、そして現場の記者に託していること－産業部長に、日経は何を取材し何を伝えようとしているのかを聞くー」。当日の参加者は 86 名でした。

＜コラム　関西の風＞

世界のあちこちで「日本酒で乾杯！」

宝酒造㈱ 広報課
山田　和宏

宝酒造㈱は京都・伏見の清酒蔵として 1842 年に創業し、現在も主力工場や登記上の本社が伏見にあります。ご存知のように伏見は灘(西宮市～神戸市)と並ぶ銘醸地で、現在も主産地であります。水が酒造りに適していること、内陸の港として栄えてきたために米が集まりやすく、またできたお酒を運びやすいことなどから発達したといわれています。

その膝元の京都市で本年 1 月、全国で初めて「京都市清酒の普及の促進に関する条例」、通称「日本酒で乾杯条例」が施行されました。市内でのパーティ、宴会などでは日本酒で乾杯しようと呼びかけるもので、もちろん市の行事でも必ず日本酒で乾杯されるようになっています。当社でも、チューハイや焼酎でなく日本酒で乾杯するようになりました。同様の条例は、兵庫県西宮市、同加東市、広島県東広島市、佐賀県鹿島市などへも広がりを見せております。地元で日本酒を盛り上げようという機運が出てきたことは大変ありがたいことで、これを機に日本酒のよさを改めて感じる方が少しでも増えてくだされば と思います。

さて、そのように地元での支援が拡大している一方で、日本酒は世界中へ飛躍しています。アニメーションやアイドル、ビジュアル系バンドなどのサブカルチャーと並ぶ「クールジャパン」の中心的存在として日本食の普及が進み、それとともに日本食に欠かすことのできない酒として日本酒も市場を拡大しています。

海外で一番大きな市場はアメリカで、日本食料理店の数は 14,000 軒とも 15,000 軒ともいわれています。本格的高級レストラン、居酒屋などのカジュアル飲食店、他ジャンルの要素も取り入れたフュージョン系など、多彩な日本食と日本酒が楽しまれています。またスーパーマーケットでの取り扱いも増えてきていますし、メジャーリーグ・サンフランシスコジャイアンツのホームスタジアム「AT&T パーク」では、当社のアメリカ子会社が製造する松竹梅が熱燗で販売されています。アメリカ以外では、フランス、イタリア、ロシア、中国、シンガポール、韓国などでも日本酒が浸透してきています。

さらに昨年、ユネスコ無形文化遺産に日本食を登録するよう日本政府から提案が行われました。現在審査が行われていますが、もし登録が叶えば、日本食、さらには日本食とは切っても切れない日本酒に対する評価が国内外で一層高まることでしょう。

ちょうど日本国内では東日本大震災を機に、日本のよさ、日本的なもののよさが再評価されるようになっています。この機運に地元でのご愛顧や海外での評価が加わることによって、消費者の皆さんが日本酒を見直すことになればと考えております。幸か不幸か、最近の 20 代、30 代には日本酒のネガティブなイメージは希薄です。この世代は日本酒に抵抗がなく、また堅苦しい蘊蓄（うんちく）の世界にも縛られていません。そのような世代が求める日本酒を提供していくことができれば､焼酎に先入観を持たない層が飲酒するようになった 1980 年代に焼酎が復権を果たしたように、日本酒も日本の食文化にあったお酒として再び存在感を持ってくるのではないかと期待しています。

皆様も次の宴会は世界に誇る日本の食文化たる日本酒で乾杯してみませんか。

■ 会員便り

当協会法人正会員の㈱タカオ･アソシエイツが“手引きシリーズ”の第4弾「広報パーソンのための　危機管理の手引き」発行

会員会社の㈱タカオ･アソシエイツは、このほど『広報パーソンのための　危機管理の手引き』（A5判 92ページ×2色、限定発売2,000円）を発行しました。

本書は先に発行した『広報活動の手引き』『報道分析の手引き』『広報ツールの手引き』に続く“手引きシリーズ”の第4弾で、危機管理に関する基礎知識やノウハウ、ケーススタディごとのチェックポイントなどについて、イラストや図表を使って分かりやすく解説しています。

収録した内容は、「リスクマネージメント」「クライシスコミュニケーション」「レピュテーションマネジメント」における危機管理の基礎から、「取材対応の原則」「記者会見の心得」「緊急時のトップの心得」「緊急時の広告の取り扱い」「ＣＭ自粛の考え方」などの実務編を網羅。

また、ケーススタディでは、「大地震などの災害発生」「欠陥･不良製品の発生」「知的財産侵害･不適正表示」「情報漏洩･紛失」「社員･役員の犯罪」「内部告発」「クレームトラブル」「会社への脅迫」「誤報･風評」「ネットトラブル」「人身事故の発生」「海外で発生した事件･事故」「有害物質の流出･環境汚染」「不適切な表現」などにおける基本対応やチェックリストを掲載しています。

当社は、これまでにも各種『広報･危機管理マニュアル』を作成しており、2007年度の「ＰＲアワードグランプリ」でスキル部門賞を受賞しています。
今回、発行した「危機管理の手引き」は、これまでのマニュアルをボリュームアップするとともに、最新情報を盛り込み、スタンダード版として改定したものです。

本書は定価 2,000 円（税込）ですが、協会会員の方にはご連絡をいただければ、『報道分析の手引き』『広報ツールの手引き』『広報活動の手引き』を同封の上、1 冊無料でお送りいたします。なお、送料は着払いとさせていただきます。

※　この件に関するお問い合わせは以下にお願いいたします。
㈱タカオ･アソシエイツ　業務推進部　木本 麻由　TEL：03-3296-0768

■ 会員便り

当協会法人正会員の㈱インテグレート 萩原千史氏から「ガタガタ村と大ナマズ」の絵本をご紹介いただきました。

「ガタガタ村と大ナマズ」という絵本を紹介します。

表紙に「山王三・四丁目自治会／文 寺田順三／絵 」と書かれているこの絵本は大田区の山王地区にある 1,800 世帯あまりの自治会が作った絵本です。私も山王三・四丁目自治会の住民の一人です。

著名なイラストレ―ター 寺田順三さんの絵が素敵です

この自治会が「ガタガタ村と大ナマズ」という絵本を作ったわけをまずお話します。

発端は阪神・淡路大震災です。阪神・淡路を襲った震災は、都市直下型の地震によるものでした。震災直後の阪神・淡路を訪れた山王三・四丁目自治会の一人の男性が、首都直下型地震に備えて、震災の翌年（1996 年）に有志数名で自主防災組織を立ち上げたのです。以来、安全で安心な町作りをモットーに防災力強化に取り組んできました。

毎月、消火ポンプの操法訓練を行ったり、毎年 2 回、町の人たちを巻き込んで、防災イベント（冬の「出初式」、夏の「子ども祭り」）を実施しています。また、防災バンドを結成して、全曲オリジナルの防災ＣＤ「防災バカ」も制作しました。今では防災協力隊の隊員も 60 名を超えるほどに成長しました。しかし、隊員のほとんどが働き盛りの男性です。もし、平日の昼間地震が起きたら、防災協力隊の大半は町におらずご近所の人々を震災から守ることができないのです。

そこで、お母さんと子供たちにも自分たちの力で命を守るサバイバル力をつけてもらおうと始めたのが「母と子の防災レッスン」です。東日本大震災直後の 2011 年 5 月のことです。それをきっかけに動き出したのが母と子の防災書籍の企画です。最初は、いざという時のための「地震対応マニュアル」を想定していたのですが、喧々諤々議論を重ねた末に、お母さんが子供に読み聞かせできる絵本を作ろうということになりました。

長い前段にお付き合いいただき、ありがとうございます。

絵本の中身について簡単に記させていただきます。この防災絵本は、地震から命を守るための二つのことを描いています。「自助」と「共助」です。

■ さあ、準備。自分たちの身は自分たちで守る、「自助」という考え方。

村長さんの号令に、動物親子は思い思いに大ナマズさんを迎えるための準備を始めますが、キツネ親子だけは「来るわけないさ」と遊んで暮らしています。まず、自分たちの身は自分たちで守らなければならない。それをキツネ親子は後に身をもって知ることになります。

■ 大ナマズが来た！キツネさん親子は？　みんなで支えあう「共助」という考え方。
ある日、ついに大ナマズさんがやってきた。村長さんは、無事が確認できた動物たちに声をかけて、キツネの親子を助けに行きます。
みんなの力で助け出されたキツネの親子は、壊れた家の材木をもって皆が集まる広場にやってきます。村の動物たちは、材木のたき火で暖を取りながら、命の大切さを語りあいます。

この絵本は、村長さんのこんな言葉で幕を閉じます。
「家がなくなったって、大切なものはほれ、ちゃんと残った。命がある。仲間がいる。ガタガタ村が、ここにある」

劇団銀河の紙芝居公演

現在、三・四丁目自治会のお母さん方が「劇団銀河」を立ち上げて、大田区内の幼稚園や保育園で紙芝居をやっています。ご興味のある方はお気軽にご一報ください。

最後に、出版元のＺ会に謝辞を述べます。「ガタガタ村と大ナマズ」の企画は、Ｚ会の力添えなくして実現しませんでした。子供たちの教育に防災を取り入れてくれたＺ会の見識に敬意を表します。
これからも、国語、算数、理科、防災を合言葉に「母と子の防災レッスン」に取り組んでいきます。

㈱インテグレート　取締役　萩原 千史
（山王三・四丁目自治会　防災協力隊隊員）
ch.hagihara@gmail.com

PRSJ in Media

● 6月1日（土）　『月刊広報会議』7月号

㈱宣伝会議の『月刊広報会議』7月号に、当協会からの投稿が掲載されました。「広報効果測定の今、これから」とのテーマのもとに、今後の指標づくりに活用できるよう効果測定の現状と課題を整理した記事を掲載した「ＰＲ Yearbook 2013」が紹介されています。

● 6月19日（水）　『フジサンケイ・ビジネスアイ』（8面）

当協会が6月18日に発表した2012年度の広報・ＰＲ業務の推計市場規模について記事が「フジサンケイ・ビジネスアイ」に掲載されました。2012 年度の市場規模が対前年度比 13.6%増の901 億円と推計されることをはじめ、ＳＮＳの利用によるＰＲ需要やコンサルティング業務の伸び、13年度における1社あたり売上見通しなどが紹介されています。

（事務局・真部）

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載